

コワーキングスペースサミット2018 ～さらなる対流を目指して～ 結果報告

イノベーションの創出を促す「対流促進型国土」の形成を推進するため、様々なヒトや情報の対流促進の場であるコワーキングスペースの運営者等を一堂に会した「コワーキングスペースサミット2018」を、白鷗大学とヤフー(株)との共催で初めて開催

日 時：平成30年6月18日(月) 場 所：ヤフー(株) オープンコラボレーションスペース「LODGE」

<ファシリテーター>

()コワーキングスペース等

小笠原 伸 白鷗大学ビジネス開発研究所 所長、白鷗大学経営学部 教授

<パネリスト>

植田 裕司 ヤフー株式会社 オフィス・経営支援本部 コワーク推進部 部長(LODGE)

岡 秀樹 コワーキングスペース秘密基地 代表、株式会社HOA 代表取締役、
一般社団法人まちはチームだ 代表理事(秘密基地)

坂本 大祐 合同会社オフィスキャンプ 代表社員(オフィスキャンプ東吉野)

土山 広志 株式会社リビタ 資産活用事業本部 地域連携事業部長(BUKATSUDO、the C)

堂野 智史 公益財団法人大阪市都市型産業振興センター クリエイティブ産業推進部 部長、
メビック扇町 所長(メビック扇町)

野口 純一 結城商工会議所 経営指導課 係長(yuinowa)

星野 邦敏 株式会社コミュニティコム 代表取締役、一般社団法人コワーキングスペース協会 代表理事
(コワーキングスペース7F(ナナエフ))

土屋 武大 国土交通省 国土政策局 総合計画課・広域地方政策課 広域政策企画官

【参加者の状況】

参加者 合計	一般参加者	報道関係者	イベント関係者
118	71	9	38



パネルディスカッションの様子



登壇者と参加者の交流の様子

コワーキングスペースサミット2018の結果報告

【パネルディスカッションの主な発言】

コミュニケーターの重要性について

- ・ 箱(スペース)をつくるだけでは人は、繋がらない。コミュニケーターが介入することで対流が生まれる。
- ・ 異業種の利用者が集まってもすぐにビジネスの話をするのは難しい。まずはお互いの関係性を構築することが大事で、それを「専門」として行うことがコワーキングスペースにとって重要。
- ・ 利用者には、積極的ではなく、一歩後ろに引いている方もいる。そういう利用者をいかにサポートし、場の中に引き込んでコミュニティ全体をいかに良くしていくかということが重要。

コワーキングスペースにおける収益性について

- ・ オフィスキャンプ東吉野(東吉野村)のような地方において、コワーキングスペース単体で収益を上げることは難しい。そこを訪れた人同士と繋がることで生まれる事業含め、自分達の副次的な収益になるような事業も兼ね備える必要がある。
- ・ 秘密基地(北九州市)、7エフ(さいたま市)のようにコワーキングスペースで収益を上げることも可能。
- ・ 小さい都市にあるコワーキングスペースでも事業が成立する場合もあるし、大きい都市であっても成立しない場合がある。事業性については、都市の規模によらない別の軸もある。

コワーキングスペースにおける公的機関及び民間事業者の役割について

- ・ 民間が運営するコワーキングスペースについては、収益を鑑み事業の方向性を転換することも出来るが行政の目的を担う公共性のあるコワーキングスペースは、収益が得られない事業であっても必要な事業である場合や行政のミッションが与えられている場合など、行政の目的に注力する必要がある。
- ・ コワーキングスペースは、新しいコミュニティであり、スペースが利用者を選び、利用者もスペースを選択する。

その他について

- ・ コワーキングスペースの歴史は浅く、出来上がった世界ではない。今から作っていくべきものでまだ創成期。